

# 「フィリピンに本をおくる会」の活動通信



NO.13

2021.12

発行：NPO 法人シニアの再チャレンジを支援する会事務局 <担当：宮崎>  
〒171-0044 東京都豊島区千早 4 丁目 38 番 5 号 ビルホリモト 101  
TEL: 050-3700-5040 FAX: 050-3488-1763  
E-mail: seniorrechallenge2@gmail.com  
(理事長：岩熊 徹 活動代表：金子多美江)

## 「フィリピンに本をおくる会」の活動報告

——NPO 法人シニアの再チャレンジを支援する会——

理事（兼）事務局長 宮崎 弘行



「フィリピンに本をおくる会」の活動をご支援いただく皆様に、私たちの活動をご紹介いただく為、活動通信 13 号を発行しましたので、ご案内いたします。今回は特に、コロナ感染の緊急事態宣言下での活動となり、会場イベント等は安全対策や参加制限をとったうえでの開催となりました。しかし、現地フィリピンとは積極的に Zoom や Messenger 等のコミュニケーションツールを活用し、長年の懸案事項であるマガタ第二図書館の再建計画を現実のものに結びつけようとしています。また、12 月には大宮アップルハウス・3 月には豊島区 KATESALON でのあむあむニット即売会の開催、タガログ語本づくりの会、2022 年度ニット教室開校等も予定しています。是非会場へのご来場、イベントへの参加賜りますようお願いいたします。

なお現地へのタガログ語翻訳した絵本と、支援品を来年 1 月に送る予定をしていますので、別紙、「支援のお願いチラシ」をご覧ください、ご支援いただきますようお願いいたします。

- パパ 2 ページ
- ママ 3 ページ
- 子供たち 4 ページ

## 豊島区 KATE SALON あむあむニット即売会開催(9 月)



従来より資金面でフィリピンに本をおくる会の活動を支援いただくあむあむニット即売会を緊急事態宣言下でしたが、感染対策を行った上、9/3 -10 の 8 日間、豊島区千早 KATE SALON で開催いたしました。開催期間はほとんど雨と、恵まれない状況での開催となりましたが、川越からわざわざ起こし頂いたり、チラシを見て、寄付の商品をお持ちいただいたりと、多くの方のご支援を頂くことができました。これを機に、今後は、大宮アップルハウスでの販売会と共に、年に2回 KATE SALON での定時開催を行ってまいりますので、引き続きご支援ください。

次回販売会開催は 2022 年 3 月 5 日- 11 日までの開催を予定しています。どうぞご来場ください。

## ニット教室開校しました（10月）



豊島区における地域交流事業として豊島区 KATE SALON においてあむあむ「ニット教室」が 10 月 7 日開校いたしました。当日は、嶋田先生のご指導により、初めてお会いした皆様も、和気あいあいと教室は進行しました。また、皆様の熱意に押され、初日から、終了時刻を大幅に超え、16:30 まで熱気あふれる楽しい時間を過ごしていただきました。2021 年度コースは、これから、来年 3 月迄継続してまいります。どうぞ楽しい時間をお過ごしください。また 2022 年 4 月からの新シーズンにおいては、講座数も増やしての運用を予定しています。ご興味頂ける方はぜひご参加ください。

(当教室には 91 才の新井さんも元気に参加されています。)

## 本つくりの会開催しています（10月）



タガログ語のラベルを貼り付けた絵本



↑  
貼り付け前の絵本

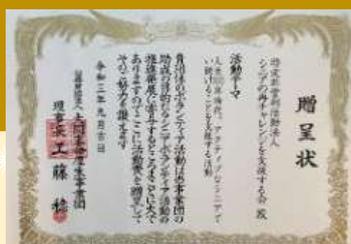
豊島区の子どもたちにも参加いただき簡単なタガログ語翻訳したラベルを絵本に貼り、現地の子供たちがタガログ語で読める絵本を作る会を開催しました。なお、開催時は東京都にコロナ感染の緊急事態宣言が発令され、子どもたちの参加は見送りとなり、大人達でのみ開催いたしました。

丁寧にラベルを貼り付ける作業は皆さま思っているよりも悪戦苦闘でしたが、慣れると共に、作業を順調に進めることができました。この会は、毎月最終金曜日に開催していますので、ご支援いただける方は、是非ご参加ください。またご自宅でご支援いただける方には、月に 10 冊程度の製作を目途にお申し込ください。

なお当活動に対し、大塚商会様より翻訳ラベルに使用する A4 ノーカット用紙を寄贈頂いています。大変ありがたく感謝申し上げます。

今後はコロナの収束状況を見ながら、子どもたちの参加を促してまいります。

## 助成金決定しました。(9月)



頂いた賞状を持つ“さいちやれ”メンバー

さいちやれは2021年5月、大同生命厚生事業団の主催するシニアボランティア活動助成に助成金の申請を行っていましたが、私たちの活動への助成が採択され、本年9月に贈呈状が届きました。当助成金は、国内でのボランティア活動に対し、最大10万円が支給されるものです。なお贈呈については本来、贈呈式に出席した上で受領する予定ののですが、本年はコロナ感染の影響により贈呈式は行われなくなり、郵送により贈呈状が送られることになったものです。

公益財団法人 大同生命厚生事業団「シニアボランティア活動助成」の2021年度助成実績は当団体のサイ上に掲載されています。

▣ <https://www.daido-life-welfare.or.jp/subsidize/senior-volunteer/results.htm>

## 紙芝居表彰（「マティラスと月」）(10月)

2021年の紙芝居文化推進協議会 第21回手作り紙芝居コンクールの応募にフィリピンの子供たちのつくった「マティラスと月」「昨日・今日・明日」「私たちはできる」の3作品を出展いたしました。このうち、「マティラスと月」がジュニアの部優秀賞を受賞いたしましたので、ご紹介いたします。なお製作はラトン第三図書館の下記メンバーです。

マティラスと月  
作者

アエシャ アビヨ  
(11才 6年生)

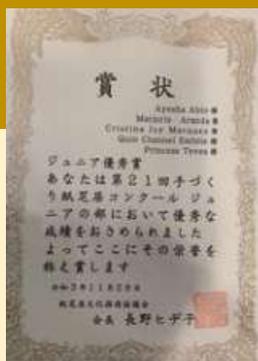
マティラスと月  
作画

|   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| <br>クリスチナ ジョイ マルガス<br>(9才 4年生) | <br>クイン サネル エムビリ<br>(7才 2年生) | <br>マルジョリ アランダ<br>(11才 5年生) | <br>プリンセス テベス<br>(10才 5年生) |
|---|--|--|---|

当作品は青木さんによって代読されています。作品はこちらからご覧いただけます。(スマホからQRを読み込んでください。)



## 紙芝居文化推進協議会開催の第21回紙芝居コンクールに参加して



代演する岩淵さん

当初予定はありませんでしたが、11月27日(土)紙芝居文化推進協議会開催の第21回紙芝居コンクールが開催され、紙芝居の実演と表彰式が行われました。さいちゃれは、ミレナさんアイシャのメッセージ代読、岩淵さん紙芝居の代演を行いました。また表彰式では活動代表の金子さんが受賞し、副賞として絵具を頂きましたので現地に届けるようにいたします。実演の様子はQR参照ください。☞



他の作品も会場に展示されました



受賞作品の前で

### 作品制作の裏話

当作品を制作したアイシャ及び制作を指導したマリスより作品制作の裏話が届いていますのでご紹介いたします。



アイシャ・アビオ

みなさん、こんにちは、私の名前はフィリピン出身のアイシャ・アビオです。11歳の6年生です。「マティアス・アンド・ザ・ムーン」というタイトルのストーリーを作りました。基本的には、もう一方が利己的であるために互いに戦う兄弟についてでした。それは私の話だったと言えます。以前私には6歳の弟がいて、両親は彼だけを目の中に入れても痛くないくらい愛おしくしていたため、彼が生まれたとき少し嫉妬していました。取り残されたと感じるたびに、子どものいない叔母の家に行っては、愛を感じていました。

私が作った話では、月はマティアスの安全な場所であり、実生活では、私の安全な場所である叔母の家のようなものです。残念ながら、弟は亡くなり、彼が長い間病気であることに気づきました。そのため、両親はその時彼に特別な注意を払っていたのです。

月が太陽から光を失ったときの話は、私が感じた悲しみを象徴しています。また姉として理解されていないことに罪悪感を感じたものです。数年後、母は2歳の女の赤ちゃんを出産しましたが、以前のように私はわがままな姉ではありません。妹が大好きな姿を、弟に見せたいと思っています。

アイシャのコメント



マリス・メンデス

マリスのコメント

紙芝居作りの途中で山を訪れたとき、マガタとラトンの子供たちがどんな話がいいかという話し合いをしていたので、彼らの経験に基づいた物語を作るように言い「We Can Do It!」や「マティアスと月」が作られました。

「マティアスと月」は元は、悲しい物語で書かれていました。私は彼らにそれをより軽い物語にするようにアドバイスしました、そしてそれは幻想的な物語となりました。アイシャはキャラクターを2人の男の子にすることにしました。私にはマシューとアダムという名前の甥がいるので、マシューとアダムのタガログ語の名前であるマティアスと、ダムエイ (Dam-ey と発音されます) にしました。マガタとラトンの子供たちに、物語を描いて書くのを手伝うように教えるのは楽しかったです。

家族の近況

- パパ 2 ページ
- ママ 3 ページ
- 子供たち 4 ページ

現地フィリピンとのオンラインミーティング開催



10月16日現地 SPM(タナイで参加)メンバー、さいちゃれ(金子さん・宮崎)フィリピン在住支援者フェルデイさん(通訳もお願いしています。)とをつないでのオンラインミーティングを開催しました。また11月20日は第2回のミーティングとして、金子さんご主人・ミレナさん・名古屋さんにも追加参加いただきました。主要議題はマガタ第二図書館の再建ですが、双方顔を見ての会議では、懐かしい出会いもあり、懐かしさの溢れるミーティングと格

段に改善させています。今後も随時開催しますので、参加希望の方はぜひご参加ください。自宅からの参加も可能です。(通訳が入りますので言葉の心配はいりません。)



## 現地だより

現在毎月現地図書館報告が、G-Drive を使って届きます。報告の内容はこちらにサイトに都度掲載しております。サイトを閲覧できる方はこちらをご参照ください。すべての報告がご覧いただけます。



当活動通信では、直近である 10 月度報告から、図書館ボランティアの皆さんからの現地図書館報告をご紹介します。

### マンガハン第一図書館

■クリスマスシーズンが近づいているので、少しお先にメリークリスマス！

先月、私は大学でいくつかの重要な課題に取り組んだため、図書館を数日間閉鎖してしまいました。マガタ・マンガハン小学校の公立教師が図書館を利用して生徒に教えていることをうれしく思っています。図書館への心からのサポートとノンストップのサポートに感謝します。

第二図書館ボランティア  
アンジェリカ・レニージョ（大学生）

### マガタ第二図書館

■今月は米の収穫に農場に行きました。そのため、姉が1週間図書館でボランティアをしてくれました。子供たちは本を読むのが大好きなので、また本を送ってください。

図書館の再建にとっても興奮しています。

第一図書館ボランティア  
ジュディアン ロア

Children in Magata love reading books!



↑ マガタ図書館の子供たちは本を読むのが大好きです。



Katutubo from  
Magata are  
dancing for  
good harvest of  
rice this year!



今年の米の収穫を祝って、マガタから来て、踊るカツツボの人たち(カツツボは現地山岳民族です。)

→



## ラトン第三図書館

→ 第三図書館のボランティア、エメリンは、子どもたちに勉強と折り紙の作り方を教えています。



Emmalyn Dela Cruz volunteer librarian of Ratong library 3 teaching children how to make origami



Arts and reading time!

大過なく過ごせたこの一月に感謝いたします。

最近ラトンの子供たちはミンダナオのルマド民族のデザインとパターンの塗り絵に興味を持っています。アイシャ アビオ・プリンセス テベス・マルジョリ アランダ・クリスチナ ジョイ マルゲス・クイン サヌル エムビリの5名で作った。「マテイアスと月」が紙芝居コンテストの優秀賞を受賞したことを非常に喜んでます。

どうもありがとうございます！

第三図書館ボランティア  
エメリン デラ クルーズ

→ エメリンは、水位が上がった川をマガタからラトン図書館に通います。(彼女の乗っているのはバンカと呼ばれる渡し舟、一回当たり2ペソかかるということです。)



Emmalyn Dela Cruz Ratong Volunteer librarian crossing the high river from Magata going to Ratong library

## 支援者様の声をご紹介します

### ① タガログ語翻訳を支援いただくミレナ先生



11月20日のズームミーティングに参加して、金子さんご夫妻、オモンさん、マガタチームの馴染みある皆さんに会えることができとてもうれしく思いました。また、宮崎さん、名古屋さん、フェルディさんにお会いでき、とてもよかったです。また、今年の紙芝居の表彰式にも参加でき本当によかったです。

2019年12月、アメリカで母の突然の死に遭遇し、翌年2月に日本に帰ってからも、その悲しみから本の翻訳には積極的になれませんでした。2020年5月の初孫(双子の男の子)誕生は私の悲しみを和らげてくれましたが、彼らの世話を忙しく奔走していました。現在、そんな孫たちも1歳半になり、別に住むようになりましたので、2022年には、再び翻訳に時間を費やすようにしたいと思います。活動代表である金子さんは、私が一緒に活動していた20年間と同様に、80歳を過ぎた今も元気に活動されており、66歳になった私にガンバレと言ってくれています。

今後もさいちゃれの皆様と協力し、マガタ、マンガハン、ラトンの子供たちに、読んで学べる面白い本を提供していきたいと思います。

皆さま、メリークリスマス。2022年はすべての人にとってより良い年でありますように！！

## ②9月より顧問として就任頂いた立教大学文学部教授上田信先生



フィリピンの子どもは、とても元気だ。私は1994年夏に立教大学のチャプレンが率いるキャンプに参加し、ルソン島のマウンティンプロヴィンスの先住民イゴロットの村に滞在したことがある。また2018年にはセブ島で過ごす経験もある。そこで出会った元気な子どもたちは、しかし、本に触れる機会は少ない。英語の本はあるのだけれど、家族や友達と語らい合う言葉の本は、見当たらなかった。日常語タガログ語に翻訳した本を届けるというプロジェクトは、まさにその空白を埋めようとするもの。特に、すぐれた絵本は子どもたちの想像力と創造力をともに育てる力を秘めている。そして絵本を送る側も、お金で買って届けるのではなく、翻訳し装丁することで、フィリピンの文化に直接に触れることになる。通信に登場する子どもの笑顔が、地に足の付いた交流の成果を物語っている。

(立教大学文学部教授 RSSC ゼミナール担当教員)

## 活動代表 金子さんコメントより



相変わらずコロナの去らないフィリピンですが、子どもたちは多数図書館に本を読みに来てくれる様子、何よりの喜びです。

こんな中で作成した3篇の紙芝居の1篇「マティアスと月」は入賞を果たし、他の2編も火山の噴火・コロナで休校・家族の失業・生活苦、ついには大洪水...の中でたくましく生きていく姿を子供自身の目で描き、大きな感動を呼びました。

今年は全国から応募総数200点、ジュニアの部は85点でその中の8点が入賞です。こういう作品を生み出す彼らの努力と表現力に大きな成長を見てうれしい限りです。このことは彼らをどんなに力付け励ますことでしょうか！どうぞ作品を見てください。感想などお寄せ下さったらどんなに喜ぶことでしょうか。

また、図書館の傷みが激しく修理費が必要になってきました。改・新築の必要が迫っています。現地でも「大変興奮しています」と期待大です。今、「さいちゃれ」さんは許可の申請など周辺の問題をクリアすべく取り組んでくれていますが、まずは地元の要望を〻と子供たちの描く希望の設計図を待っています。皆様のご要望はありますか？「ゆっくりと急ごう」です。

相変わらずの皆様からの温かいご支援をお願いします。良いお年を！

3月の大統領選からも目が離せません。

金子多美江

NPO 法人シニアの再チャレンジを支援する会の「フィリピンに本をおくる会」の活動は、今後も継続し、翻訳本をおくる活動を続けてまいります。当活動支援いただける方は引き続きご支援お願いいたします。なお支援金の送付は下記までお願いいたします。

★郵貯口座

名義) 特定非営利活動法人 シニアの再チャレンジを支援する会  
トビ) シニア再チャレンジ 研究会 (口座) 記号 00150-6-420797

★銀行からの送金の場合

ゆうちょ銀行 店名〇一九 店番 019  
(当) 0420797



家族の近況:

パパ 2 ページ

ママ 3 ページ

子

私達、シニアの再チャレンジを支援する会は、本年5月より、当会の会員である堀本さんにデザインして頂き、左記新ロゴを採用いたしました。当ロゴは、さいちやれの目指す3本の柱である次の3つの事業を示しています。

- Recurrent Education for seniors (シニアの為の再教育事業)
- Matching to a rewarding way of life (マッチング事業)
- Project activity (自主運営活動)

なお、「フィリピンに本をおくる会の活動」は、さいちやれの自主活動事業の大きな柱として展開させていただいております。私達と共にこれら活動に興味頂き、私たちの活動に参加頂ける皆様は下記より入会の手続きをお願いいたします。

(入会ご案内) 



(入会届) 

